

平成十七年十二月一日

御首神社社務所

みくびだより



御挨拶

拜啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

紀宮清子内親王殿下におかせられては、去る十一月十五日めでたくご成婚遊ばされ、一国民と致しましてはこの上ない喜びと謹んでお祝いを申し上げます。先行き不透明な現代にあつては明るいニュースであり、益々の皇室の弥栄をご祈念申し上げます。

さて、去る九月二十五日に半年間続いた愛知万博が「自然の叡智」をメインテーマに、予想をはるかに越える二千二百万人もの入場者を数え、会期延長の声も聞かれる中に、惜しまれつつも閉会となりました。

近年、特に地球規模での温暖化によって南極では氷山が、かつて無い速度で溶け始め、水位の上昇が危惧され、アメリカではハリケーンによる未曾有の被害を受け、わが国では各地で予想を越える集中豪雨など、甚大な被害をもたらしております。

神道では悠久の昔より自然を総て神として崇め、人々はその恵みに感謝してまいりましたが、今正に神道の理念が再評価された訳であります。

今回の愛知万博を機に全世界の人々が力を一つにして、地球の自然環境の大切さを悟り、人間を始め、地球上に生きる総ての生命体にとって、よりよい地球環境を取り戻す努力が急務ではないかと思われまます。

当社では新年を迎えるに当たり、注連縄の製作や境内の清掃など、迎春の準備に追われる毎日でございますが、職員一同、全国各地からの初詣の方々に、清々しくご参拝頂けますよう努力を致しております。

最後になりましたが、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

日本のはじまり

(古事記より)

はるかに遠い、とあゝい昔、このひろい大空を全部
まごめられる天之御中主神、神産巢日神、高御産巢日
神の三人の神さまがあらわれまじしたが姿を見せられま
せなひつた。

そして、空と海がみじやく別れるようになった頃、
阿斯訶備比古遲といひ勢いのよい神さまがあらわれ、
つづいて天之常立神さま、国之常立神さま、その他あ
おくの神さまが生まれ、最後に伊邪那岐・伊邪那美と
いふ夫婦の神さまが生まれまじた。



それから、ながい年月がすぎで日本の国が誕生す
る前のころのおはなひつた。

そのころ国土は水に浮いた油のよひつた、フワフワと
海面をただよっていまじた。天の神さまはこのよひつ
を見て日本の国土をりっぱなものにしつたと思われ、
伊邪那岐・伊邪那美の命の二人に天の沼矛といふあ
きな矛をさげして、国を命じられまじた。

二人の神さまはすぐに話合いをされ、大空に力がる天の浮橋に立ち、伊邪那岐の命がその矛で海水をかきまわし始めました。

ぬるぬる、だんだん海水がたまっていくのはあつませんか。しばらくして矛を海中から引き上げると、あつあつふしぎ？ その矛の先からしたたり落ちるつゆは見る見るうちに固まって小さな島となりました。その島を淤能碁呂島と名ひけて、二人の神さまは天降りさせました。

島に降りた二人の神さまは、初めに天まで届くような高い柱を建てました。そして二人の神さまはその柱の左と右からそれぞれめぐらしてい、つぎつぎの国を産んでゆきました。

これら多くの島国は、大八島国とよばれるものになりました。これが今の日本の国なのです。

さらに二人の神さまは、この国に住む神々を産まなければ・・・といって大八島国について海の神さま・山の神さま・木の神さま・土の神さま・水の神さまな

と多くの神さまが生まれました。そして、最後に燃えさがる火の神さまを産んだとき、伊邪那美の命は大やけどをしてしまい、ついになくなってしまうました。



◎おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！
 今回の「日本の始まり」は、古事記に登場する伊邪那岐・伊邪那美の命の国造りの神話をもとにいたしました。
 我が国の祖先から語り継がれた神話の心に触れられ、お子さまやお孫さまと一緒に読んでいただき、このお話が子供たちの情操教育の一助となりましたら幸いです。

祭事報告

御首神社ホームページ

神職への質問FAQ

今回は『お札の祀り方』について

ご紹介いたします。

- ▼西宮神社例祭(相殿) 七月十七日午後三時
- ▼末廣稻荷神社例祭 八月 七日 午後三時
- ▼夏越大祓 八月七日午後三時半
- ▼長寿祈願祭 九月十九日午後四時
- ▼神明神社例祭 十月十七日午後三時
- ▼七五三参り 十一月一日～三十日
- ▼七五三参りは大神様に子供の無事成長を奉告し感謝を申し上げ、尚一層の御守護を願う人生儀礼です。当社では十一月中旬の日曜日は、晴れ着姿の大勢の子供達で賑わっていました。
- ▼崇敬会大祭 十一月 三日 午後二時
- ▼新嘗祭 十一月二十三日午後三時

大幕ご奉納の報告

この度崇敬者の方の篤志により本殿・社務所の大幕をご奉納を頂き、誠に有り難うございました。



問 お札をお祀りしたいのですが、神棚自体は家のどこに設置すれば良いでしょうか？

答 各ご家庭の事情により一概には言えませんが、明るく清浄な場所、正面が南か東を向くようにし、ご家族みんながお参りしやすい場所が最も良いでしょう。また、止むを得ず神棚の上を踏んでしまう場合は、「雲」と書いた紙を上貼して下さい。

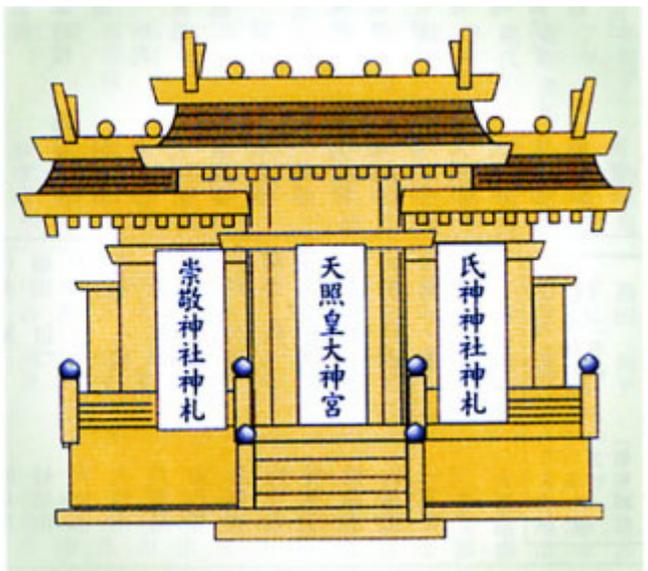
問 複数の神社のお札があるのですが、どのようにお祀りしたらよいのでしょうか？

答 宮型の大きさにもよりますが、三社造り(扉が三つ)では、中央に伊勢神宮のお札をお祀りし、向かって右側に氏神さまのお札を左側にはその他崇敬される神社のお札をお祀りください。また、崇敬神社のお札が多くなる場合は、崇敬の篤い神社を手前にするように順番に重ねてお祀りください。

一社造り(扉が一つ)では、手前から、伊勢神宮・氏神さま・崇敬神社と重ねてお祀りください。

問 家に神棚を置く場所が無いのですが、その場合はお札を柱や壁に貼り付けてお祀りしてもよいですか？

答 神棚の設置場所が無いとの事ですが、柱



や壁などに貼り付けるといったことは避けて頂き、箆箭の上など目線よりも高いところを綺麗にして、白布などを敷き、そこへお札を南向きか、東向きに立ててお祀り下さい。そして御供え物も用意して頂ければ尚結構です。また、最近では簡易的な神棚も販売されていますので、是非神棚の設置をお勧めいたします。

纏め お札をお祀りされる場合は、各ご家庭の事情に合った神棚をお選びになってお祀り下さい。そして年末には古くなったお札を元の神社へ返納され、新しいお札をお受けになり、清々しい気持ちで新年をお迎え下さい。又、元の神社へ返納されない場合は近くの神社での左義長の折り、お焚き上げ下さい。

神楽について

神楽はご神前に於いて奏でる音楽で神遊かみあそびとも云い、神慮を慰め常日頃のご神恩に感謝の誠を捧げる為に奉納する舞楽であり、雅楽の調べにのせて神楽歌を詠い、舞を伴います。語義としては「神座遊かみくらあそび」の略されたもので「神座かみくら」が訛つて「かぐら」となったのではないかと言われています。

語源は神代の昔、天照大御神あまてらすおほみかみが天の岩戸いわしほにお隠れになった時、大神さまをお慰めする為に、その前で天鈿女命あめのつゆめのみことが手に竹の葉を持ち歌舞をされた（古事記・日本書紀）のが神楽の始まりと言われています。

神楽には「宮廷神楽きうていしんが」と「里神楽さとしんが」に大きく分けることができます。

「宮廷神楽」とは宮中で奏される神楽で、大嘗祭を始め紀元節祭など、一年を通して多くの神楽が奉納されていて、現在では宮内庁式部職の雅楽部によって継承されています。

「里神楽」は民間で行われる俗楽の一種で神楽歌を詠わず、笛や太鼓の楽器を用い、獅子頭・狐・おかめ・ひよっとこなどの仮面をかぶり無言で舞い、その態度や所作によって物語を表現する神楽です。

全国の神社の祭礼を中心として民間に広まった里神楽は地域性があり、内容も大変豊かであります。

伊勢神宮に於いても二十年ごとに行われる

式年遷宮の夜に奉納され、現在でも毎年の神嘗祭の夜や春と秋の年二回、内宮・外宮の神楽殿で「神楽祭」が行われ、神恩感謝の奉納が続けられております。又、手続きをして頂ければ団体・個人を問わず、いつでも両神楽殿での御神楽の奉納が可能です。

当神社に於きましても、古くから例大祭（四月二日）に雅楽の調べに乗って舞楽「蘭陵王らんろうおう」が優雅にして勇壮な舞いを奉納させて頂いております。

又、試楽祭と本楽祭には氏子区域の子供達が、笛や太鼓の音も軽やかに「打ち囃子」の奉納が行われます。この打ち囃子も「里神楽」の流れを汲んでいるものと思われます。

全員が一致団結して、神人合一の境地に至る姿は見事なもので、参拝者全員が感激を受け、すがすがしい気持ちになれるひとときであります。春の例大祭には是非ご参拝頂き、神楽の奉納をご覧になって下さい。



崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会費（年会費）

- 一、個人会員 三千円以上お志し
- 一、家族会員 五千円以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭・秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈祷致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員の方は昇殿参拝が許されます。

祭事案内

▼年越大祓
▼元旦祭
新年を迎え
国の隆昌と世
界の平和及び
氏子崇敬者の
繁栄と幸福を
祈り、元旦祭
を斎行いたし
ます。引き続
き諸祈願の御
祈禱を行いま
す。是非ご
参拝下さい。

▼左義長
昨年一年間、各ご家庭でお祀りされました御神符やお守り又、飾りや縁起物等をお焚き上げ致します。

▼浄火祭
皆様が奉納されました帽子や絵馬又、金幣串や紅白串を忌火にてお焚き上げし、心願成就を祈願致します。

▼祈年祭
▼御鞆神社例祭
▼例大祭
▼南宮神社例祭
▼お田植え祭
▼農休み祭



十二月三十日 午後三時
一月 一日 午前0時
二月 二十九日 午後三時
三月 十七日 午後三時
四月 二日 午後三時
五月 四日 午後三時
六月初旬
六月十八日 午後三時

『御神木』盛大にお見送り

来る平成二十五年に行われる第六十二回伊勢神宮の式年遷宮において、ご神体が納まるもつとも神聖な御器のご用材のことを御樋代木と言ひ、通称は御神木といわれています。

この御神木が去る六月五日に長野県の上松町と岐阜県の加子母村から伐り出され、両県の各沿道で奉迎祭が盛大に行われました。

当地域でも六月八日の午前には神職は総出で奉仕を致し、神社総代を始め、各神社の敬神婦人会の会員、そして一般市民がわんさと押しかけ沿道に立ち並び、日の丸の小旗を力いっぱい振りながらの熱烈な送迎風景が見られました。

或る参加者は「伊勢神宮の尊いご神木がこの目で拝見出来るとは、本当に有り難いことだと言って感激しておられました。」



厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くあります。

前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。厄年に当たる方は勿論のこと、厄年に当たらない方も、日々を平穩に過ごして頂くためにも、一年に一度は厄払いの御祈禱をお受けになりますよう、お勧め致します。

平成18年厄年に当る生れ年				
		前厄	本厄	後厄
男子	42歳	昭和 41年	昭和 40年	昭和 39年
	25歳	昭和 58年	昭和 57年	昭和 56年
女子	33歳	昭和 50年	昭和 49年	昭和 48年
	19歳	平成 元年	昭和 63年	昭和 62年

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
TEL(〇五八四)九一一三七〇〇
ホームページ www.mikubi.or.jp
Eメール syanusyo@mikubi.or.jp